



一般社団法人いい屋根屋社中
プレスリリース：2026年09月30日

地域社会の防災力向上および屋根事業者の社会的地位を確立 する、一般社団法人「いい屋根屋社中」発足

2025年12月に任意団体「いい屋根屋」として、全国16社の屋根屋が集まり、活動して参りました。より本質的な活動を行うため、2026年5月28日に、一般社団法人の設立登記を行いました。

2026年5月28日

報道関係者各位

一般社団法人 いい屋根屋社中

代表理事 石川 弘樹



一般社団法人「いい屋根屋社中」発足

屋根業界の構造的課題である、

- ・事後修理依存
- ・不透明な取引構造
- ・メンテナンス不足

の解決を通じた、地域社会の防災力向上および屋根事業者の社会的地位を確立するため、2025年12月に任意団体「いい屋根屋」として、全国16社の屋根屋が集まりました。

より本質的な活動を行うにあたり、2026年5月28日付けで、一般社団法人として設立登記を行い、正式名称を「いい屋根屋社中」としました。

目的

私たちは屋根工事業をメンテナンス業へと再定義し、主に「屋根の災害予防」に取り組むことで、事業者と消費者の双方に圧倒的な価値をもたらします。

屋根工事の再定義：「事後修理」から「事前予防」へ 屋根工事は「労働の切り売り」から「信頼という資産」に基づく経営へ。

事後修理



価値の転換：実質被害の修復
災害が起きてから対応する



保険活用：不確実な受給
証拠不足で保険金が下りない可能性



収益構造：突発的な収益
災害待ちの不安定な経営



関係性：単発の請負
主従関係による一時的な契約

事前予防



「安心」の提供へ
災害に遭う可能性を低減させる価値を提供します。



保険活用：証拠に基づく確実な受給
事前の点検・メンテナンス記録を残すことで、保険金が下りやすくなる実利的なメリットがあります。



収益構造：「継続的」な収益へ
災害待ちの経営から脱却し、自ら収益を作り出せる安定したビジネスモデルへ移行します。



関係性：「パートナー」へ
消費者との関係を主従関係から、信頼を資産化するパートナー関係へと再構築します。

背景

施主と屋根屋、双方を蝕む「負のスパイラル」



1, 「75%」の戸建てが被災する可能性

調査によれば、一戸建てのメンテナンスを行っていない層は、実に75%に達します。メディアは台風や地震のたびに「屋根修理業者・ボランティアの不足」を嘆きますが、真の問題は供給不足ではなく「予防の欠如」にあります。

この「75%のメンテナンスの空白」こそが、災害時に日本の住宅を容易に破壊する真犯人です。私たちは、この「事後対応という悪循環」を「事前予防という好循環」へと転換するために立ち上がりました。

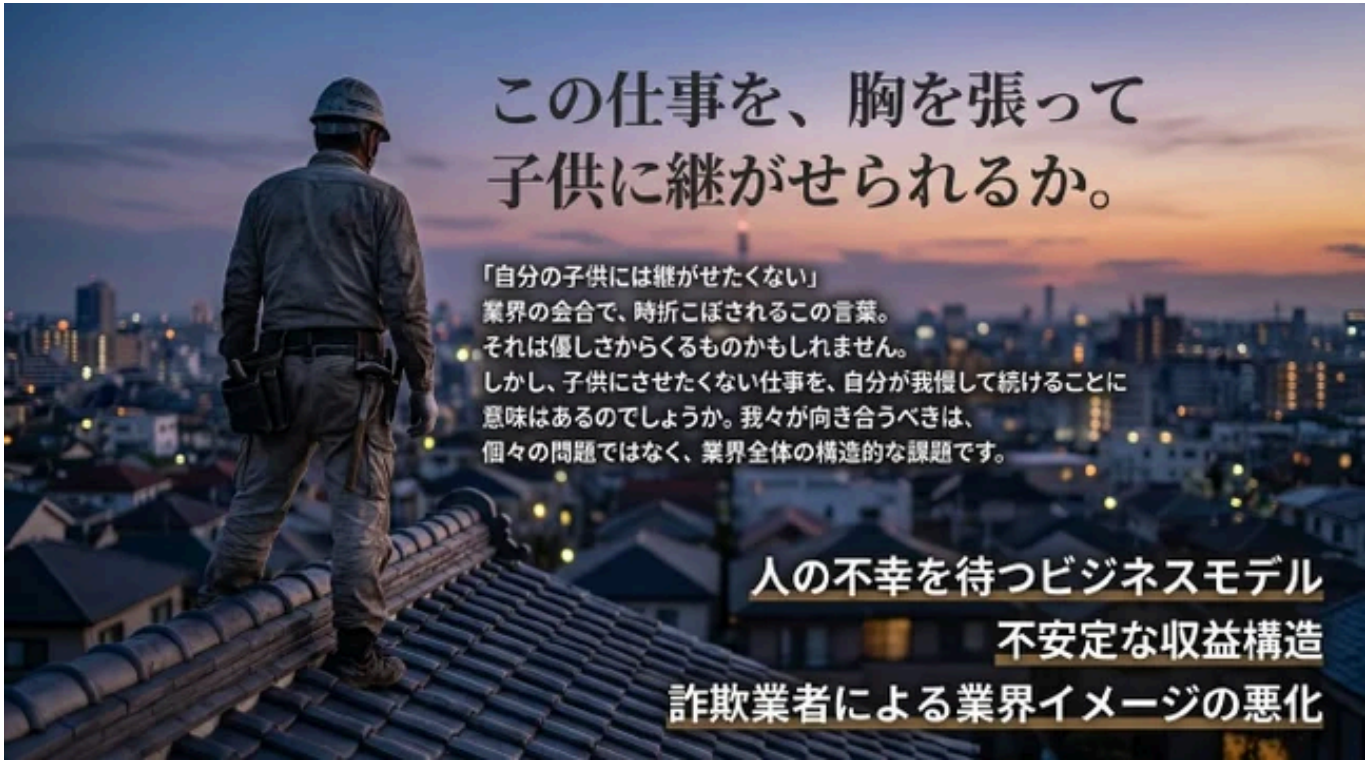
2, 「人の不幸待ち」というビジネスモデルの限界

従来の屋根業界は、天災や雨漏りが発生してからの修理ニーズに依存してきました。これは「誰かの不幸」を待つ倫理的葛藤を含むだけでなく、被災時に依頼が集中して対応不能に陥り、結果としてブルーシートが並ぶ街並み、雨漏りによるカビの発生、そして避難所生活の長期化に伴う心理的・身体的被害という二次災害を増幅させています。

3, 「人災」としての不透明性

住宅メーカーの重圧下で自社集客能力を奪われた業者が存在する一方で、消費者は「どこに頼めば良いかわからない」という情報弱者の立場に置かれ、そこを悪質な詐欺業者が狙い撃ちにするので、さらに

屋根屋の評判が下がるという悪循環が定着しています。天災時にはより悪質な詐欺業者が発生しやすくなります。



この仕事を、胸を張って
子供に継がせられるか。

「自分の子供には継がせたくない」
業界の会合で、時折こぼされるこの言葉。
それは優しさからくるものかもしれません。
しかし、子供にさせたくない仕事を、自分が我慢して続けることに
意味はあるのでしょうか。我々が向き合うべきは、
個々の問題ではなく、業界全体の構造的な課題です。

人の不幸を待つビジネスモデル
不安定な収益構造
詐欺業者による業界イメージの悪化

活動指針



いい屋根屋 社中：3つの宣言



屋根の災害予防を あたりまえに

被害が出る前の定期点検と、
いま必要な工事を分けた適切
なメンテナンス計画を提案し
ます。



誇りある 誠実な仕事を

押し売りや訪問営業は一切せ
ず、プロの目線による適正な
見積もりで安心を提供しま
す。



屋根業界の 問題を解決

新しい工法の共有や業者間の
連携を強め、地域に「安心・
安全」を届ける会社を増やし
ます。

「いい屋根屋社中」の活動指針として、私たちは以下の「三柱」を宣言します。

一、屋根の災害予防をあたりまえにします

一、お客さまと家族、地域の暮らしを守る、誇りある仕事をします

一、屋根業界の問題を解決します

この宣言は、単なる精神論ではありません。災害の被害に遭ってから対応する「悪循環」を断ち切り、被害に遭う前に守り抜く「災害予防メンテナンス」を構築するための、具体的かつ強力な行動規範です。

またこの活動指針は、常に変化していく可能性があります。「いい屋根屋とは？」と問い続け、活動内容をその時代に適した内容に変化させることが、いい屋根屋としてあり続けるためには必要だと考えているからです。

「社中」に込められた想い

私たちは組織名として「社中」を冠しました。これは、坂本龍馬の「亀山社中」を模範とした、以下の3つの特質を持つネットワーク型組織の現代的再定義です。

我々は、なぜ「社中」なのか？

坂本龍馬が立ち上げた「亀山社中」。それは会社や団体という形式ではなく、「志を同じくする者が動けば世の中が変わる」という信念そのものでした。我々「いい屋根屋社中」も同じ思想を宿します。

- **組織ではなく「志の共同体」**
形式よりも志。立場よりも情。打算よりも理想でつながる。
- **商業と理想の融合**
屋根を直すことは、暮らしを支え、まちを守ること。社会的意義と事業を一体化させる。
- **ネットワーク型組織の先駆け**
上下関係ではなく、志でゆるやかにつながる自律的な屋根屋集団。

「商いは、志の手段である」
- 坂本龍馬

1，組織ではなく「志の共同体（志縁）」

地縁や血縁、あるいは資本による上下関係ではなく、形式や立場を超えた「志」によって結ばれたチームです。「志を同じくする者が動けば世の中が変わる」という信念を共有します。

2，商業と理想の融合による「開国」

亀山社中が貿易を通じて日本を開国・近代化したように、私たちは屋根業界の閉鎖的な下請け構造、いわば「封建的請負制度」を打破します。直接、居住者とつながる知見をもつことで、地域の安全を守ることで、健全な利益と高い志を両立させます。

3，自律的なネットワーク型組織

フラットな横の連帯により、各事業者が自立したプロとして動きつつ、有事には強固な連帯をもって地域を守る。まさに今の時代が求める自律分散型組織の原点です。「商いは、志の手段である」という思想に基づき、世のため人のために「利」を回すプロフェッショナル集団。それこそがいい屋根屋社中です。

今後の活動

一般社団法人いい屋根屋社中は、屋根屋の地位向上と、戸建てに住むお客さまの安心安全と、住宅インフラの強靱化を同時に成し遂げます。私たちは、ただの加盟店を求めているのではありません。「契約よりも志」を重んじるプロフェッショナル（志縁の士）を求めています。

参画には以下の覚悟が求められます。

- ・「いい屋根屋宣言」を胸に刻み、顧客と地域の暮らしを合理的に守る意識を持つこと。
- ・既存の請負構造に甘んじず、自律的な「災害予防」の先駆者となる意欲があること。
- ・日本の屋根からブルーシートを消し去り、災害に負けない街をつくる。

この壮大な社会実験に加わる志ある屋根屋の参画を、私たちは心よりお待ちしております。

法人概要

名称：一般社団法人 いい屋根屋社中

目的： 屋根業界の構造的課題

- ・事後修理依存
- ・不透明な取引構造
- ・メンテナンス不足

の解決を通じた、地域社会の災害予防への貢献、屋根事業者の社会的地位の確立

主な活動内容：

- ・屋根の災害予防の認知拡大
- ・同じ志の屋根屋ネットワークの構築と知見共有
- ・居住者に対する合理的な屋根メンテナンスの啓発

代表理事： 石川 弘樹

電話： 03-3785-1616

メール： hiroki@iiyaneya.com

公式サイト： <https://iiyaneya.com/>

当プレスリリースURL

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000191255.html>

一般社団法人いい屋根屋社中のプレスリリース一覧

https://prtimes.jp/main/html/searchrlp/company_id/191255